

平成29年9月9日

公益財団法人 愛世会  
愛歯技工専門学校  
学校関係者評価委員会

## 第四回学校関係者評価委員会議事録

平成29年9月9日（土）、平成28年度自己点検・自己評価報告を基に、下記の通り「第三回学校関係者評価委員会」を開催いたしました。

### 記

1, 開催日時 平成29年9月9日（土）10時～12時

2, 開催場所 愛歯技工専門学校 会議室

3, 参加者 学校関係者評価委員

#### 【学校関係者】

江上 勝二 (卒業生代表、  
有限会社ユアーズデンタルラボラトリー代表)  
高橋 由美子 (保護者代表、78期在籍学生の母親)  
吉田 茂夫 (業界関係者、港歯科技工士会代表、  
有限会社ラボスクエア 代表)  
榊原 功二 (業界関係者、有限会社榊原デンタルラボ 代表)

#### 【学校側】

岡野 京二 (愛歯技工専門学校長、理事)  
田中 誠 (愛歯技工専門学校教務主任、委員長)  
金井 正行 (愛歯技工専門学校教員、副委員長)  
谷口 正幸 (愛歯技工専門学校事務長)

(他記録係1名)

#### 4, 会議の概要

- (1) 開会 委員長より挨拶、開催目的、趣旨の説明
- (2) 学校側参加者の紹介
- (3) 学校関係者評価委員の各委員のご紹介
- (4) 学校長より挨拶
- (5) 平成28年度学校自己点検・自己評価報告（点検項目1～3）  
・第一回学校関係者評価委員会の委員等の意見の活用に関する報告
- (6) 質疑応答・審議、小休憩
- (7) 平成28年度学校自己点検・自己評価報告（点検項目4～6）
- (8) 質疑応答・審議、小休憩
- (9) 平成28年度学校自己点検・自己評価報告（点検項目7～9）
- (10) 質疑応答・審議、小休憩
- (11) 平成28年度学校自己点検・自己評価報告（点検項目10～11）
- (12) 質疑応答・審議
- (13) 平成29年度の取り組み、重点目標・計画について学校側より説明
- (14) （点検項目1～11について）質疑応答・意見交換、  
今後の取り組みについて審議
- (15) 委員長より挨拶、第五回委員会開催について 閉会

※なお、第四回学校関係者評価委員会における、学校関係者評価委員による評価結果、意見等詳細は別紙報告書に記す。

#### 5, 会議で挙げた委員等からの主な意見とそれに対する学校側の説明・回答

※委員等からの主な意見は一部抜粋

(学生募集の停止・閉校について)

- ・平成29年度入学者数と平成30年度学生募集停止、平成31年度閉校予定に至った経緯について聞かせて下さい。

→ (学校側の回答)

平成29年度入学者(第79期生)は8名です。参考までに2年生は16名です。体験入学での来校者は、昨年よりやや少ない程度でしたから、それなりに集まるだろうと考えていましたが、冬頃から春にかけて、入学希望者の足が止まりました。

18歳人口の減少に加え、高卒の就職が高水準であること、大学入学希望者が増えたこと、大学や専門学校の科目が多様化して、人材が分散したことが原因ではないかと思えます。

虫歯が減って歯科にかかる人が少なくなったことから、歯科技工という職業が知られていないと思えます。

全国歯科技工学校教育協議会の資料では、平成10年頃に年間3000人いた入学者数が、昨年は920名程度に留まっており、毎年縮小傾向が著明です。

今年、6月当財団理事会に於いて、近年の学生募集の滞りから学校運営の行き詰まりにより平成30年度の募集停止が決定致しました。日本一の伝統校でありますから憂慮すべきとの意見もありましたが、残念です。

- ・ 学校が閉校になるが今後の教員の方の再就職など生活に係わる問題は？  
(教員の生活が成り立たないと学生にも迷惑がかかりかねないのではないかと考えたため)

→ (学校側の回答)

教員の方には平成31年3月までの間(現状の1年生が卒業まで)は学校に今まで通り、勤務して頂く。その後、本校附属の研究所に移籍できるようにしている。待遇面でも現状の給与は保証する。ただし、本人が外へ就職先を求める場合はそれも構わない事としている。残された期間は精一杯学生のために頑張ってもらいます。

- ・ 学校が閉校になることは学生には知らせてあると思うが、不安になる学生はいないのか？

→ (学校側の回答)

学生とは良く話し合う様にはしますが、卒業まではしっかり指導するから安心してくれと伝えてあります。就職指導も今までと変わりなく行うつもりです。

(学校運営について)

- ・ 平成29年度の学校運営は、何に重点を置きますか。

→（学校側の回答）

学生募集は中止するものの、その他は勿論、今までどおり学生教育は遂行致します。ただ、31年に閉校するわけですから、国家試験対策と就職指導には今まで以上に万全を期さなくてはなりません。

学生数が減ったわけですから、全員の教員が個々の学生を見守る、声かけをする体制が必要でしょうし、それを実践致します。

閉校に向けた事務手続きも始めました。板橋区と東京都に対し、書類提出、またその準備を進めています。

#### （学生の技術レベル、学習内容について）

・学生の技術力の低下が感じられる。以前の学生の方が技術力が高い様に思えた。もちろん学校も指導していると思いますが。

→（学校側の回答）

歯科技工士として技術力を付けるためには彫刻が基本だと思います。歯の形を覚え、再現力が増せば歯科技工の多くに反映し、実習作品の評価も高くなると思います。

その楽しさを味わうには、地道な努力が必要で、最近の学生の中には今一步の努力を怠る者もあり、そこを指導したい。

#### （修業年限について）

・毎年のように申し上げていますが二年は短い。先ほど挙げた学生の技術レベルの低下も修業年限を増やすことで解決するのではないか。

→（学校側の回答）

修業年限を増やすことで学費その他生活費などが余計にかさみ、入学を希望する者にとってハードルが上がってしまう。現状として残念ながら入学者の減少により本校は閉校が決まってしまったわけではあるが、3年制を導入するとさらに入学者が減りこの業界が縮小していく懸念がある。技術レベルの底上げは、業界自体の収支や利益が得られていなければ現実的ではないと思われる。

本校としてはもちろん学習内容や実習内容に可能な限り工夫を加え取り組んでいくが、目に見えるレベルでの学生の質の大幅な向上は難しいと言わざるを得ない。

**(第五回学校関係者評価委員会の開催について)**

- ・ 次回の開催予定を教えてください。

→ (学校側の回答)

平成30年8月を予定しています。なお、今回の会議で頂いたご意見については、次回の委員会で取り組みや状況を報告いたします。

以上